



発行：公益財団法人国際労務管理財団（I.P.M.）

東京本部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-26-6 新宿加藤ビルディング7F
http://www.ipm.or.jp/ TEL：03-3354-4841(代) FAX：03-3354-4847

セミナー「これからの外国人雇用受入れについて考えよう」 ～名古屋初開催～

TOPICS	ページ
セミナー「これからの外国人雇用受入れについて考えよう」	1
IPM日本語教育の新たな取り組み	2
技能実習生の活動紹介	
-勾玉づくり体験、運河遊覧会、市民公開講座	3
-社内旅行で沖縄を訪問	3
モンゴルからの実習生受入拡大に向けて	4
担当職員から	4

2019年12月13日、IPM名古屋事務所主催セミナー「これからの外国人雇用受入れについて考えよう」を名古屋で初めて開催しました。

今後益々外国人雇用の増加に呼应し法令の改正や制度の見直しが予測されます。また、送出し国側の経済や社会の状況も日々変貌しつつある中、本セミナーでは、各専門分野から最新の実務情報を紹介しました。外国人雇用についてご検討頂き、また成功に導く一助となれば幸いです。

◆ 講演 1 外国人雇用制度の最新動向と来日する外国人労働者の姿 IPM大阪事務所長 橋本 祐介

外国人雇用の背景にある日本の労務環境の大きな変化や、受入れ企業に見られる対応内容、在留外国人の業種別・国籍別の実態や問題点、送出し側の各国の事情、給与水準等、多方面にわたって解説。更に、具体的な制度説明として「新在留資格」について、実習制度との関係、業界別の制度運用、公的助成金の利用について技術的な内容にも言及しました。

◆ 講演 2 技能実習生ってどんな人？どんなトコからやって来る？ IPM大阪事務所 カンボジア王国担当 中江 大樹

実経験に基づいた途上国の人々の心情や真の生活の姿、現在の日本とカンボジア王国との関わりと本当の支援とは何かについて、カンボジアの人々の国民性と今後の日本との相互援助の在り方等、いろいろな方向から紹介しました。「特定技能者をカンボジアから受け入れたい」等受講者からのアンケート回答もあり、関心の高さがうかがえました。

◆ 講演 3 ベトナムの今

IPM名古屋事務所長 DANG THI HOAI LINH

急速な発展を遂げるベトナムの現在の状況を、歴史や人口構成、経済、国民性等を交えながら、ハノイ出身のベトナム人目線で紹介。また、ベトナムと日本での勤務経験から、両国の相違、日本企業の素晴らしさ、ベトナム人従業員雇用時の留意点についても言及しました。

会場には各企業、監理団体・送出し機関関係者、民間人材派遣会社のご担当者等23名が出席され、外国人雇用についてのより実態に即した情報やIPMの外国人実習生・就労者育成に対する強いメッセージをお伝えするとともに、有意義な交流の場を持つことができました。今後もこうした取り組みをしていく所存です。



当日のセミナー会場の様子

IPM日本語教育の新たな取り組み

～FacebookとYouTubeを活用 いつでも どこでも 何度でも～

IPMでは、2019年11月から、外国人技能実習生への日本語教育の新たな試みとして、Facebookページと、YouTubeチャンネルを開設しました。ここでは、その概要を紹介します。

現在の日本語学習は、対面授業や、教科書による学習だけではなく、インターネットやSNS、学習アプリケーションなど、スマートフォンやパソコンを活用した学習スタイルが広く利用されるようになってい

ます。しかし、このような中、紙媒体の通信教育がメインであるIPMの日本語教育も、新たな学習者のニーズに対応するため、今回FacebookとYouTubeを日本語教育に活用することとなりました。これにより、以下のような学習支援を行うことができます。

◆FacebookとYouTubeの活用で可能となる日本語学習支援

学習動画の配信	学習したい実習生はいつでも、どこでも、何度でも自由に学習することができます。
教材の配布	漢字や文法の練習教材も、ファイルを張り付け、実習生へダウンロードしてもらうことで、簡単に配布することができます。
LIVE講義の配信	Facebook、YouTubeにはLIVE動画の配信機能もあるので、遠くで行っている講義でも、リアルタイムで実習生に見てもらうことが可能です。
実習生へのお知らせ	勉強会や能力試験の日程、課題の回収日など、実習生へ周知したい内容を簡単に、大人数や、決まったグループへ知らせることができます。
質疑応答	メッセージ機能を使い、いつでも質問や回答を行うことができます。

上記以外にも、既に「年金脱退一時金の請求方法」や「インフルエンザ予防について」など、生活に役立つ動画も作成し、配信しています。

これから更に活動を盛り上げていきたいと考えておりますので、実習生だけではなく、企業様にも是非ご登録・ご閲覧いただければ幸いです！



IPM日本語教育 Facebookトップページ



IPM日本語教育 YouTubeチャンネル



日本語学習動画の配信



インフルエンザ予防についての紹介動画



Facebook IPM日本語



YouTube IPM日本語 チャンネル

技能実習生の活動紹介

～地域行事への参加や日本人との交流など、技能実習生の活動を紹介します～

勾玉づくり体験、運河遊覧会、市民公開講座

～多彩な地域イベントに参加～

多文化共生を考える宮城県多賀城市国際交流協会の多彩なイベントに、株式会社武蔵野仙台工場様で食品加工業に携わるベトナム人技能実習生が参加しました。

まず参加したのは、2019年6月16日、多賀城あやめ祭りの開催に併せ、市内在住の外国人技能実習生に、自分たちの暮らす町を知ってもらおうという市内巡りツアーでした。

当日はあいにくの雨模様のためコースを一部縮小しましたが、陸奥国政庁の置かれていた多賀城市にちなんで、奈良時代の都人装束の仮装や勾玉づくり体験など、日ごろ接する機会の少ない日本の歴史を楽しく感じてもらいました。

また、10月6日は「小舟で巡る貞山(ていざん)運河・御舟入堀(おふないりぼり)遊覧会」に招かれました。松島湾と仙台湾をつなぐ運河を、多賀城市国際交流協会のメンバーの方がガイドとして同乗した小舟に乗って遊覧しました。途中すれ違う釣り船や岸辺の人たちに手を振りながら、舟は仙台港まで進み、帰路は景勝地松島を遠くに眺めるコースでした。

さらに、10月19日には市民公開講座「外国人技能実習制度について知ろう！多賀城で働く外国人」に参加、会場に集まった方々に向けて、自分たちの工場のことや日本での生活について紹介する機会をいただきました。

この講座のご縁で、11月14日には公益財団法人宮城県国際化協会から宮城教育大学に招かれ、学生を前に日本での暮らしを講師の質問に答える形式で語りました。

同学は小中学校の教員を志望する学生が多く、技能実習生との交流から将来の教室における共生のあり方を想像してもらおうという趣旨の講義でした。

講義後、声を掛けてくれた学生と一緒に昼食をとりながらの歓談を楽しみ、実習生は「いずれ進学して母国で日本語教育に携わりたい」と将来の思いを語っていました。



「小舟で巡る貞山運河・御舟入堀遊覧会」を楽しむ技能実習生のみなさん

社内研修旅行で沖縄を訪問

～日本人従業員との親睦さらに深まる～

2019年11月に、株式会社アキュアリンク様でビルクリーニングの業務に従事するベトナム人技能実習生3名が、社内研修旅行で日本人従業員とともに沖縄を訪れました。

普段、神奈川県で生活する彼らにとって、沖縄は初めての訪問地であり、首里城や美ら海水族館など、複数か所の観光名所も訪れました。

特に美ら海水族館で神秘的に満ちた海の生き物を鑑賞したことが強く印象に残ったようで、大水槽の向こうで泳ぐジンベエザメやアカウミガメが目の前を過ぎたときは、とても興奮していました。彼らにとって、技能実習生活ではなかなか接する機会のない沖縄の魅力を感じることできた研修旅行となりました。

技能実習生はみな良い思い出になったと話しており、さらに日本人従業員と旅行できてとても楽しかったと声を弾ませながら語ってくれました。

株式会社アキュアリンク様では、こうした研修旅行のほか、忘年会なども実施し、社内の親睦を図る取り組みを行っています。こうした環境で技能実習生が今後技能実習に励み、母国の技能技術および知識の発展への貢献が期待されます。

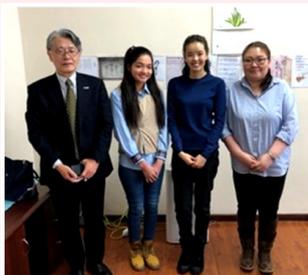


研修旅行では、和やかに食事を楽しむ機会もあり、社内の親睦を一層深めることができました

モンゴルからの実習生受入拡大に向けて

2019年12月5日～7日、モンゴルの送出し機関を訪問しました。既に提携しているT&DC社や、昨年8月の訪問で愛媛県西予市の介護施設への技能実習生受入で協力させていただいているMYANGAN SAKURA(→I.P.M.News2019年秋号No.60参照)のほか、女性を対象とし介護に特化した送出し機関であるRecruit Master社を訪問しました。

同社は、2017年創業と新しく、日本の女性も多く参加するNGO“アジア母子支援センター”が母体となり、介護実習生育成プログラム(9ヶ月)や介護に必要な日本語教育も行っています。社長のバトフー氏によれば、「モンゴルは、10世帯の1世帯はシングルマザーであり、一方、高齢者と障害者同居の介護事情が存在する。将来の国づくりに日本の技能実習制度を、女性に特化して活用して行きたい」との強い思いを語りました。その理由について、「(日本の技能実習制度は)給料を貰いながら日本語力を更に高め、日本の介護技術が学べるため、現在のモンゴル諸事情を鑑みると介護の門をくぐる女性は祖国の宝物」と技能実習制度の意義について話してくださいました。



Recruit Master社
訪問。右から二人目
がバトフー社長



同社が運営する日
本語教育施設で
の授業風景。



教室には日本語のスローガン
やモットーを掲示。教材は介護
に特化したものを使用



バトフー社長(写真左)のアレ
ンジで介護施設も訪問

今後について社長は、「日本語力の基礎を徹底的に勉強し、人の肌に違和感なく触れることに慣れた上で日本へ送り出したい」と、自らも日本での介護の現場経験を持つ立場から、より実践的な方針を計画しています。民間の介護施設との契約化で介護実習にも取り組み、4人の日本語の先生には少しでも高い給与を支払うために事務員や他のスタッフは置かないなど、マンパワーの配分にも気を配っています。

同社の日本語授業も視察しましたが、55名の受講生のうち47名は日本での実習機関が決まっているとのことで、真剣に日本語の学習に取り組んでいました。

このほか、在モンゴル日本国大使館への訪問では、日蒙国際親善の下、IPMが目指す適正な送出し機関創出と将来の人材育成のためのフォーラム開催への理解と支援も得ることができ、今後のモンゴルからの実習生の拡大が期待されます。

担当職員から

はじめまして。IPM六甲山研修センターの三宅大輝と申します。日本語教師としてタイで5年、ベトナムで1年働いた事があります。

IPM六甲山研修センターでは、母国で半年ほど日本語の基礎を学習した実習生と一緒に生活をしながら日本語教育をしています。例えば日本語の応用や活用方法、日本の生活に必要なルールやマナーです。特に力を入れているのは日本語の指示を聞き取り実際に行動できるかの練習です。

今まで日本語教師として経験してきた一般的な文法を教える日本語の講義とは違い、実習生が職場でいかに日本人と円滑に仕事ができるかを考え、実践的な日本語講義を意識しています。

まず私たちが実習生にとっての初めての日本人である為、私自身が日本人として恥ずかしい行動をせず、楽しむときは共に楽しみ、ルールを破ることや仲間に不適切な態度をとった際には厳しく注意し、オンとオフの切り替えをしっかりと出来るような指導を心掛けています。

文化や生活環境が違う日本で働くことに誇りと喜びを持って、受け入れ企業の方も実習生たちもみんなが笑顔で納得のいく生活ができればと願っております。また、それこそが私にとっても笑顔になれる最高のやりがいだと感じています。

昨今では実習生についてのトラブルが騒がれていますが、六甲山研修センターで学んだ実習生は問題を起こさず楽しく元気にのびのびと働いて欲しいと願いながら、努力を怠らず講義に取り組んでいきます。

編集後記

技能実習制度の拡大に伴い、失踪技能実習生の数も増加しています。出入国在留管理庁は昨年12月24日付で「技能実習制度における失踪問題への対応について」を発出し、対策を強化しています。企業の皆様におかれましても、失踪者を出さないように引き続き適正な実習の実施に努めていただきますようお願いいたします。(N)

● 次回は2020年5月1日発行予定です